

# ミドルリーダーの機能を活かした 道徳教育推進教師の在り方



印西市立印西中学校

桑代 かほり

## 1. はじめに

いよいよ平成31年4月1日より、中学校でも「特別の教科道德」が全面実施される。今日、道德に対する関心は教育現場以外でも高まりを見せている。「特別の教科道德」に直接関わる私たちは大きな役割と責任を担っている。

そんな中で印西中学校では道德教育を熱心に取り組んできた。特別な指定を受けているわけではないが、全職員が一丸となって工夫のある資料や展開で毎時間授業に臨んでいる。これは教科化が迫っての取り組みではない。そんな本校の道德での取り組みの一つに「全校一斉道德」がある。学期に一度、どの学年、学級も同じ資料を用いて授業を展開する。この「全校一斉道德」は14年目を迎えている。生徒に求める価値項目を全体で話し合った後に、道德教育推進教師が資料を提供している。また、市教研などの公開がある際は、展開クラスを希望する教員が複数出る。それほど熱意や意欲のある学校でさえも「特別の教科道德」に対する不安は拭いきれない。本校の職員を対象に以下のアンケートを行った。各項目での結果は次の通りである。

①現在、道德で困っていることは何か。	
教員経験年数1～10年未満	教員経験年数10年以上
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発問や展開、板書がわからない。</li> <li>・研修や授業参観の機会が少ない。</li> <li>・資料の選び方が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備をする時間がない。</li> <li>・特別な支援を要する生徒への配慮。</li> <li>・価値を深めるような発問。</li> </ul>
②「特別の教科道德」になって不安なことは何か。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価やその方法について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価（文言や授業との関連）について。</li> <li>・教科書以外の資料の扱いについて。</li> <li>・教え込みにならないか。</li> </ul>

経験年数が10年未満の教員は、導入や展開など指導法に悩みを抱えていることがわかる。教科とは違い、免許のない道德の専門性の部分が不安の一因にもなっているのではないだろうか。また、研修の機会が少ないという不安もある。学級をもつとすぐに道德の授業を実践しなくてはいけないという即効性の問題が浮き彫りとなった。これらの問題は経験を重ねていけば解決していくものなのだろうか。経験年数が10年以上の教員のアンケートにも発問についての不安は挙げられている。さらに校内外でも様々な役割を担っていく年代に突入すると時間的な問題も起因してくる。

このように学校全体として不安や悩みを抱えている中で、教科化を迎えようとしている。「評価」という新たな不安が道德の今日の課題に拍車をかけている。

三部会の中学校でも同様のアンケートを実施した。

①現在、道德で困っていることは何か。	
教員経験年数1～10年未満	教員経験年数10年以上
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方、まとめ方、意見の拾い上げ。</li> <li>・教科と違い何をしたらいいかわからない。</li> <li>・実践が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時数の確保。</li> <li>・準備の時間がない。</li> <li>・担任によって差が出てしまう。</li> <li>・教材研究の不足。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考えを深められるような発問。</li> <li>・授業のマンネリ化。</li> </ul>
②「特別の教科道徳」になって不安なことは何か。	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の観点について。</li> <li>・評価の統一性。</li> <li>・評価による多忙化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・考え議論する道徳とは。</li> <li>・評価材料。</li> <li>・ノートやワークシート。</li> </ul>

本校と同様に若年層の授業への悩みが見られる。しかしその現状を改善していくための具体的な手立ては今までなかったように感じられる。

## 2. 研究主題と学習指導要領の関連から

### 郡の研究主題

豊かな心と、ともによりよく生きようとする児童・生徒を育てる道徳教育

教育基本法第2条第1号で、教育の目的として「豊かな情操と道徳心を培う」ことを規定している。学習指導要領では、道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、豊かな心や創造性の涵養を目指した教育の充実に努めることが示されている。教育課程全体を見ても、道徳の役割の重要性を知ることができる。「よりよく生きる」という教育の最も重要な基盤ともなる道徳教育は、各学校での指導法の工夫や特色ある実践が求められていることは明らかである。

### 本校の学校教育目標及び重点目標

#### 自立貢献

1. 家庭と力を合わせ、基本的な生活習慣を定着させる。
2. 主体的に粘り強く学習や部活動に取り組む態度や力を身に付けさせる。
3. 集団の一員としての望ましい態度や行動の在り方を身に付けさせる。
4. 教育環境を整え、落ち着いて学べる場をつくる。
5. 生徒と社会がつながる「開かれた学校づくり」を推進する。

以上のような学校教育目標のもとで、日々教育実践を重ねている。特に、重点目標の3についての具現化の方策として「道徳教育推進教師が、全校道徳を主導するとともに、若手学級担任の道徳授業や授業づくりを支援する」ことを掲げている。

### 本校の道徳科での努力点

心に響く道徳の時間の指導法を工夫する

本校では指導法に焦点をあてて日々実践を重ねている。先述したように指導法の工夫は学習指導要領の中でも求められているところである。全校一斉道徳を実施する際は、一度学年会議で発問や時配について検討をしている。同じ資料、価値項目であっても発達段階や学年の特色が配慮された指導を目指しているからである。その会議で取り上げられたことを道徳教育推進教師が総括し、1時間1時間が生徒の心に響く道徳になるように努力している。

研究主題

ミドルリーダーの機能を活かした道徳教育推進教師の在り方

学習指導要領の中でも、道徳教育推進教師を中心とした指導体制について述べられている。具体的には、授業を実践する上での悩みを抱える教師の相談役になる、情報の提供、道徳科に関する授業研修の実践、道徳科の授業公開や情報発信などが挙げられている。これは子どもたちに豊かな心を育むためににも、道徳が教科化を迎えるにあたって重要なことといえる。

この道徳教育推進教師の役割は、学校におけるミドルリーダー（中堅教諭）の役割と重なる部分が多い。まず、悩みを抱える教師の相談役という部分である。ミドルリーダーに求められるのが若手教員の育成である。特に道徳に対して若年層教員が抱えている悩みは多くある。身近な存在であるミドルリーダーが日々の実践の中で、その悩みを分かち合い、少しでも解決していくことは、教育としても学校としても大きな意味があるだろう。

また、ミドルリーダーは若年層とベテラン教員との架け橋ともなる役割も担っている。資料の提供や授業の検討などをミドルリーダーでもある道徳教育推進教師が関わることで、学校全体で道徳を取り組んでいこうという姿勢にもつながるものとする。

このように、道徳教育推進教師としての役割と、ミドルリーダーとしての機能を相互的に活用していくことで、よりよい道徳教育が目指せるものと考え研究主題を設定した。

3. 仮説と実践

道徳教育推進教師の役割が有効に機能することが今日の道徳には欠かせない。そして、どの学校も課題としていることでもある。本校では、教育課程も含め、以下のような仮説のもとで実践を重ねた。

—仮説①—

道徳教育推進教師が日常的に授業実践に関わることで、授業者の不安の解消へとつながるであろう。

—実践1—

若年層の学級担任と道徳教育推進教師が毎時間TTで授業を行う。

《平成28年度以前》

	担任A	担任B	担任C
1時間目			
2時間目			
3時間目			
4時間目	道徳	道徳	道徳
5時間目			

《平成29年度以降》

	担任A	担任B	担任C	桑代
1時間目	道徳			道徳
2時間目				
3時間目		道徳		道徳
4時間目			道徳	道徳
5時間目				

若年層教員が道徳に対して一番抱えている悩みが授業である。本校ではこれまで道徳の時間を水曜日の4時間目に設定していた。平成29年度からは、道徳教育推進教師とのTTを実施するために各学年で曜日を変えた。また学級の展開時間もずらすこととした。このような教育課程にしたことでTTの実施だけでなく、同じ学年での授業参観ができる

ようになった。また、短冊やイラストなども1クラス分を使い回せるようになり、準備時間の短縮を図ることができた。

より効果的にTTを活用していくために以下の段階を踏まえ、実践を重ねた。

【第1段階】(基本の流れを知る) … 1学期

『中学生の新しい道』の基本指導案通りに道徳教育推進教師が授業を展開し、担任の先生には参観してもらう。

【第2段階】(補助資料の活用) … 1学期

『中学生の新しい道』の基本指導案に導入や終末を工夫したものを道徳教育推進教師が展開し、担任の先生には参観してもらう。

【第3段階】(授業を体験する) … 1学期

話し合い活動を取り入れた資料で実際に子どもたちと一緒に体験する。授業は道徳教育推進教師が展開する。

【第4段階】(身近な資料の見つけ方) … 1学期

自作資料(新聞記事、楽曲、詩、映像など)で道徳教育推進教師が展開し、担任の先生に参観してもらう。→資料A



『あの日生まれた命・2年自作資料』

T1: 道徳教育推進教師

T2: 担任(導入部分での参加及び授業参観)

【第5段階】(部分的に授業を展開する) … 1学期(現在)・2学期

範読や板書、役割演技などT2として部分的に担任の先生に参加してもらう。T1は道徳教育推進教師が担当する。

【第6段階】(子どもを意識して授業を展開する) … 2学期

『中学生の新しい道』の基本指導案に沿って担任の先生が展開をする。板書は道徳教育推進教師が担当し、授業者が子どもたちの発言や表情に注目できるように配慮する。

【第7段階】(自分らしさや思いを授業で表現する) … 2学期

『中学生の新しい道』の基本指導案に導入や終末を工夫して展開する。授業者の経験や思いを伝えることで授業が深まることを体験させる。板書は道徳教育推進教師が担当する。

【第8段階】(自作資料で心に寄り添う) … 3学期

自作資料で展開することによって、学級の実態に即した発問や切り返しを考える力を育成し、自信をもって道徳を展開させる。

この取り組みの最大の魅力は、自分のクラスで日常的に実践研修ができることであろう。

研修には様々な形がある。授業参観もその一つであるが、学年や実態が違うとその実践を自分の学級でうまく活用できないことも多い。また、授業参観をするために自分のクラスを離れて出張に行くことにもためらいを覚える。そういった点をこの取り組みでは改善できているように思える。また、道徳教育が一朝一夕では成り立たないことも考えると、日々の授業が研修としての重要な役割を担っているこのTTでの取り組みは大いに意味があるのではないだろうか。

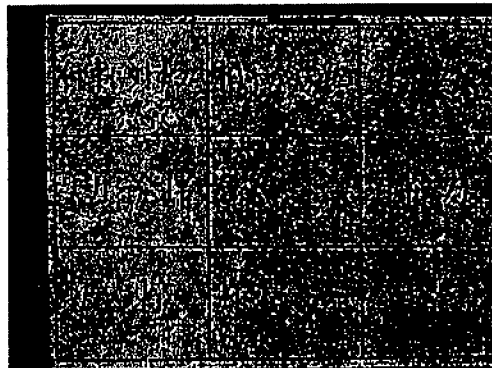
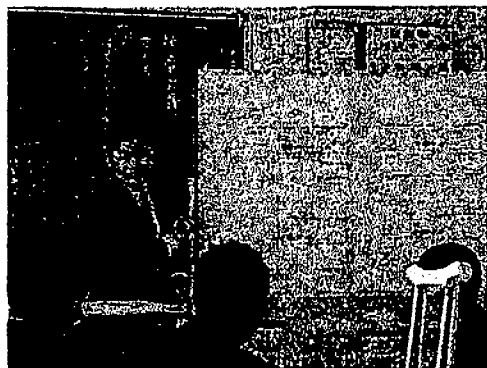
—仮説②—

授業者が自信をもって授業を行うことで、子どもたちの豊かな心が育まれるであろう。

—実践2—

道徳教育推進教師が板書を担当し、T1が生徒の意見に耳を傾けられるようにする。

若年層教員から聞かれる悩みの一つに「生徒の意見をうまく拾い上げたり、広げたりすることが難しい」というものがある。この悩みを軽減するために、TTでの取り組み【第6段階】以降にあるように、道徳教育推進教師が板書を担当する試みをした。意見を聞いて板書としてまとめることは労力のいることである。板書を意識するあまり、生徒の意見をおろそかにしてしまうことも考えられる。その一方で、効果的な板書は生徒の思考を整理させ、意見交換を活発にする材料にもなる。「自分の考えを発言することが苦手」「他の意見と比較することが困難」といった特別な配慮を要する生徒への手立てともなる。効果的な板書は、生徒全員が考え議論する道徳へと導いてくれる。

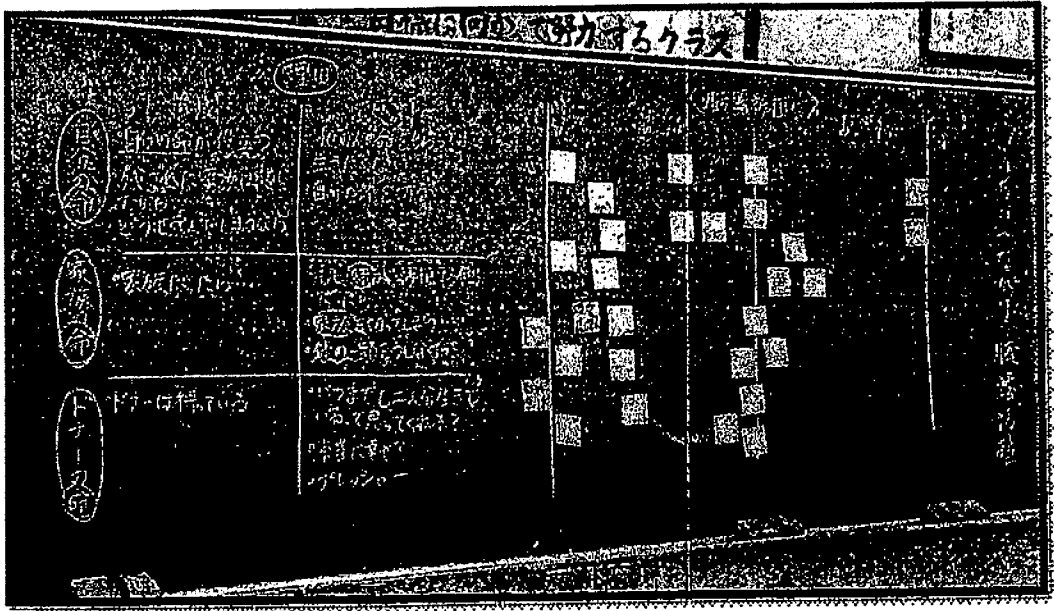


『中学生の新しい道3・給食万歳』～マンダラチャートを用いた意見の交換～

T1：担任（生徒の意見のくみ上げ）

T2：道徳教育推進教師（クラスの意見をマンダラチャートとしてまとめる）

この実践で留意したことは、生徒の思考を視覚として訴えることだけではない。授業者へ本時のねらいや道徳的価値がぶれないように示す目的もある。キーワードとなる言葉や価値につながる意見が、生徒にも授業者にも伝わるように意識した。深い学びのある道徳によって、教師が生徒とともに考える時間を共有できるようになる。この積み重ねが授業に対する自信へとつながっていくものと考えている。



『中学生の新しい道3・いのちのつながり・臓器移植』

T1：担任

T2：道徳教育推進教師（板書）

臓器移植は是か否かの話題に傾きかけてきたので、板書で「自分の命」「家族の命」「ドナーの命」と書き加え、どの意見も命の重みを見落とさないことを全体で確認できるように板書を強調した。終末は生命の尊重を考えられるように軌道修正を試みた。

また、モラルジレンマ資料では、T1が意見を引き出し、その間に道徳教育推進教師が集約することにも挑戦した。意見が活発になってくると生じてくるのが時間の問題である。限られた時間の中で、最大限に生徒を活動させるのに有効であった。この実践では、ネームプレート以外にも心情スケールを用いて自分の考えを表現させた。少人数のグループにおける話し合いでは、教員が二人いることで目が行き届きやすくなり、的確な助言や声かけをすることが可能となった。また、話し合いの途中でスケールに変化が起きる生徒の発見もしやすくなり、展開での指名に深まりをみせることができた。



『やっとなつた職業（2年・自作資料）』→資料B・映像資料

TTでの授業前や後には打ち合わせを行う。ほんの気軽な会話程度の打ち合わせとして、お互いに負担とならないようにしている。特別に時間を設けるのではなく、少しの空き時

間や部活動後の時間を活用している。もちろん、とことん話し合いたいという要望がある時には対応をしている。講師の先生もこの打ち合わせに参加してくれる場合もある。

しかし、「道徳は学級経営が表れる」「学級担任が道徳をやるべき」という考えが言われてきて久しい。このTTでの取り組みとは相反するものにも思える。学級担任以外の教員が道徳の授業を展開することについて、学習指導要領では以下のように述べられている。

(1) 学級担任の教師が行うことを原則とするが、校長や教頭などの参加、他の教師との協力的な指導などについて工夫し、道徳推進教師を中心とした指導体制を充実すること。  
(「第3章 特別の教科道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2より)

主として学級担任が計画的に進めるものとしているが、全教員が協力し合う指導に重きが置かれている。しかし、学級担任の存在は子どもたちにとって大きいことは確かだ。そのため、今回の実践では学級担任とのTTとした。T2であっても同じ空間に学級担任がいてくれることは、生徒にとって安心感につながるからである。そういった空間でなければ生徒の心に寄り添った道徳の指導はできない。

また、教科担任制である中学校では、学級担任以外の教師が授業をすることに対する抵抗や戸惑いは少ないように思える。教科として関わっている学年であれば、生徒の実態を把握した道徳の授業は比較的展開しやすいように思える。

ここまで若年層教員への道徳実践を述べてきた。しかし、先述したアンケート結果でも明らかなように、道徳に対する不安を抱いている教員は年代を問わない。学校全体での道徳の授業力を向上させるために、授業後に道徳通信を発行している。教室掲示と教員を対象としたこの通信には、資料のあらすじ、板書、生徒の考えを載せている。生徒にとっては授業の振り返り、TTを実施していない学級の教員にとっては価値に迫れたかの確認を目的としている。授業者も振り返りこそが大切であり、そこから得られるものは大きい。



# どうとくりんだ

道徳通信

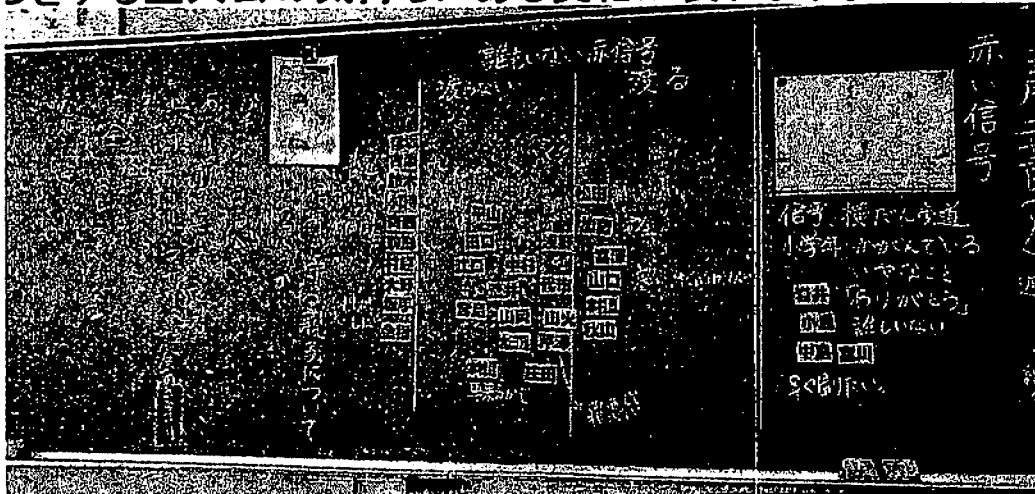
第4号 1学年

～週に1度の道徳わっしょい!～

平成30年5月28(月)

## 赤い信号

今回は『赤い信号』という資料をもとに、意見を交換しました。ある田舎町の駅前は夜になると車の通りはありません。多くの人が信号を無視して渡っていきます。主人公のサラリーマンもそんな一人でした。ある日のこと、いつものように駅前に出ると小学校1, 2年生くらいの女の子と母親が信号待ちをしていました。もちろん車の通りはありません。そんな親子をバカにする酔っぱらいもいます。流れで一緒に信号待ちをする主人公の気持ちにある変化が表れます。



## 授業で思ったこと

- ・他人に流されないで正しいことができるようになりたい。
- ・ルールは守らないと意味がないと思った。
- ・みんなを守るためにきまりはあるんだと思った。
- ・マナーもルールも守っていくことが大切。
- ・誰も見ていない時こそきまりを意識していきたい。
- ・当たり前のことが当たり前にできる人間になりたい。
- ・小さい子どもが守れて、大人がお手本になれないのは恥ずかしいことだと思った。

### 3. 成果と課題

#### 成果① 自信をもって授業に臨める ～授業者の不安の解消へ～

昨年度、推進教師とのTTを実施した学級担任は現在、各学年の道徳の中心として活躍している。もちろん授業は単独で実施している。その学級担任に昨年の道徳で得られたものを聞いた。

「以前は発問がごちゃごちゃしていて、子どもたちが戸惑うことが多かった。この一年でスッキリとした発問ができるようになり、生徒が思考する時間へスムーズに入っていることが伝わってきた。」

「授業で自分らしさを出せるようになった。一緒に考える余裕も出てきたように思える。」

「自信をもって授業に臨むことができるようになった。うまく価値に迫れないこともあるが、何が原因だったかを振り返られるようになった。」

この教員たちは現在も授業後の報告をしてくれる。また、道徳の授業で挑戦してみたいことも相談してくれる。授業者が道徳の授業実践を通じて、何か手応えを感じていることが伝わる。不安が少しずつ解消し、自信へとつながっているように思える。このような関係が現在でも続いていることも大きな成果と言える。これは道徳教育推進教師が中堅（ミドルリーダー）の立場であることも影響しているように思える。基本的なことでも相談しやすいという利点がある。また、身近な教員が授業をすることで「自分にもできるかもしれない」という視点で授業を参観することもできる。

#### 成果② 生徒も大きく成長 ～生徒の豊かな心の育成へ～

昨年、TTを実施した学級は進級するにあたりクラス替えを行った。1年間でだいぶ意見が活発に言える集団になってきたので残念な思いもあった。しかし、現在2年生になった彼らは新しい学級で中心となって発言する姿が見られた。その姿に周りの生徒が刺激を受け、学級全体に浸透しつつある。1年間で育まれた心は、環境が変わっても生徒一人一人の心に豊かさとして存在し続けてくれた。教員の成長と共に生徒も大きな成長を遂げていた。このことは我々の予想を上回る成果であった。

#### 成果③ 道徳の教科化への展望（資料C）

教科化を迎えるにあたっての一番の不安であったのが評価である。TTを実施することで生徒の成長に気づく機会が増え、評価の材料を得られたことがあげられる。

#### 成果④ 保護者や地域への発信（資料D）

TTでの実践をした学級担任は道徳の様子を学級通信に掲載してくれている。このことにより、保護者や地域へ道徳の取り組みが伝わっている。家庭でも道徳について話し合っきっかけともなっている。

#### 課題 推進教師としての準備や扱い

毎時間TTを実施するという一方で、それなりの準備が必要となる。昨年度のように各学年で1クラスずつ実施すると、週に3種類の資料での授業準備が必要となる。また、今年度のように1学年の3クラスに入ると、同じ授業を3回連続で展開することになる。どちらの場合も授業者の精神力が必要不可欠である。

時数的な問題から、推進教師は担任をもつことが厳しくなる。モチベーションを下げずに取り組む姿勢も求められる。

# 資料編

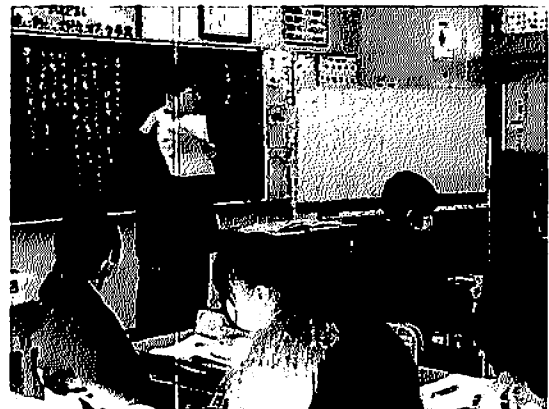
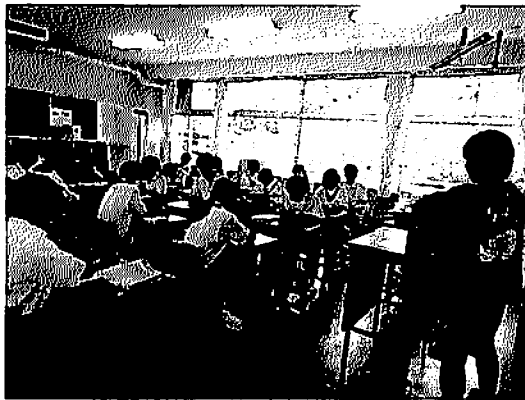
資料A…「あの日生まれた命」(内容項目D-(19))

資料B…「やっとなかんだ職業」(内容項目A-(1))

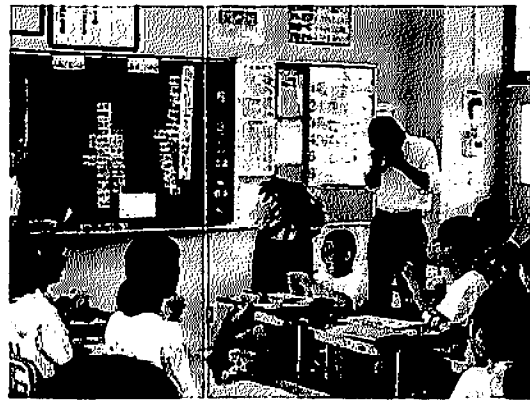
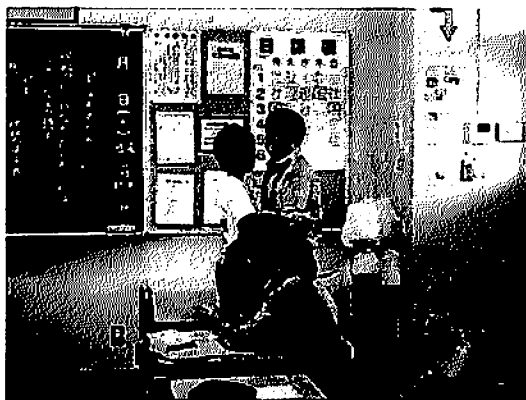
資料C…子どもの変容と評価

資料D…学級通信(TTを実施したクラス)

資料E…学年通信(TTを実施している学年)



T1として授業をする若手の先生方



役割演技を取り入れた実践

(左:くれよんのくろくん 右:二通の手紙)

## 第3学年C組 道徳学習指導案

展開場所 3年C組教室

指導者 教諭 桑代かほり

### 1 主題名 内容項目 生命の尊重 (内容項目D-(19))

(資料名「あの日生まれた命 48人の子どもたちと家族からの手紙」

NHKスペシャル「あの日生まれた命」取材班・編)

### 2 主題設定の理由

#### (1) 価値について

学習指導要領D-(19)は、「生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する」ために設定したものである。

道徳における視点は4つにわかれている。生命の尊重が含まれている内容Dはもちろんのこと、内容A「主として自分自身に関すること」、内容B「主として他の人とのかわりに関すること」、内容C「主として集団や社会とのかわりに関すること」のように、全ての根本に存在するのが生命の尊重であろう。人は生きているからこそ自分と向き合い、他者と関わり、そして集団や社会としての関係を築いていく。つまり、自他の生命について考えていくことが様々な価値につながっていくものとする。また、このことは教育そのものにもいえることである。よりよく生きていくための心の育成、豊かな人間性を育むことが教育の目指すところだからだ。

このように道徳性や生き方に不可欠な「生命の尊重」ではあるが、日々の生活の中でその扱いはどうであろうか。近年、生徒の生活様式も変化し、自然や人間との関わりも希薄になっている。生命のあるものとの接触が少なくなり、その尊さについて考える機会を失いつつある。また、中学生の時期は比較的健康的に過ごし、部活動や学校行事に取り組む生徒が多い。こういった環境の中で、自他の生命について有り難みを実感している生徒は決して多いとは言えない。身近な人の死に接したり、人間の生命の有限さやかけがえのなさを感じる場面は減っている。生命軽視の軽はずみな行動につながり、社会的な問題となることもある。

生命に関わる経験が少ない現代の生徒が、生命について考えをもつことはできないのだろうか。それは違う。経験が少ないからこそ、様々な立場になって物事を考え全体で共有していくべきである。そこに道徳の重要性がある。

以上のように考察すると、かけがえのない生命を尊重し、日々の生活を大切にしていって心を育てるといふねらいは、現代の生徒にとって必要不可欠なものである。この価値に迫ることが生徒一人一人の心や生き方を豊かにしていくものの一つとなるだろう。

命が大切なものであることは言うまでもないが、さらに命のもつ意味を考えさせる機会としたい。ただ単に「命は大切である」という価値観からもう一步踏み込み、命の尊さを深い部分で共有することを目指す。

(2) 生徒の実態について (男子18名, 女子15名, 合計33名)

全体的に活発な学級である。二年生から同じ仲間でも過ごしていることもあり、道徳の時間は男女ともに堂々と考えを述べるができる。お互いの意見を聞いて、自分の考えと比較することもできるようになってきた。道徳の時間はコの字形での展開をしているが、それぞれが事前に隊形の準備を行って臨んでいる。また、道徳ファイルを配布することも進んで行っていることから、意欲的に授業に臨んでいるように感じる。

また、今回の価値に迫るために「私たちの道徳」P105(かけがえのない生命)を用いて事前調査を行った。結果は以下の通りである。

【自分の生命, 他人の生命, 生きとし生けるものの生命の尊さについて考えたことをまとめよう。】

①命…死を意識したもの(男子4人, 女子6人, 合計10人)

- ・自らの命を絶つようなことは絶対にしてはいけない。
- ・人の命は奪ってはいけない。
- ・自殺は生きられない人たちに対して失礼。
- ・もう二度と戻ってこない。
- ・生きられなかった人の分まで生きる。
- ・最後まで全力で生きなければいけない。
- ・命には終わりがある。

世の中のできごと(自殺, 殺人, 病気など)に注目した考えが多く見られた。普段生活する中でも生命について自分なりに思いを巡らしていることがわかる。近年, 同年代の子どもが関係したニュースも多く取りざたされていることも影響していると考ええる。

②命…つながりや相手を意識したもの(男子1人, 女子3人, 合計4人)

- ・親がいたから自分がいる。
- ・たくさんの命をもらって自分は生きている。
- ・受け継がれてきたものから受け継ぐものに。
- ・色々な人の支えがあった。
- ・命がけで産んでくれた。
- ・自分もそれ以外の命も大切にしていきたい。
- ・精一杯生きて恩返しをしたい。

発達段階上, 親に対して反抗した態度をとってしまう生徒もいるが, 心の奥底では親との命のつながりや感謝を意識していることがわかる。今回の目指そうとしている価値項目にも通じているので, 全体で共有して深めていきたい。

③命…今の人生を意識したもの(男子2人, 女子2人, 合計4人)

- ・悔いの残らない人生を送りたい。
- ・いつなくなるかわからないから精一杯やる。
- ・それぞれの命の長さは違うから, どうなるかわからない。
- ・自分の命を無駄にせずがんばる。

自分の命に注目した意見であるが, 生命の有限性を意識し精一杯取り組んでいきたいと

いう前向きな気持ちが表れている。

④命…重みを意識したもの（男子6人、女子1人、合計7人）

- ・全ての命が平等だ。
- ・小さい命でも大切。
- ・重くて難しいもの。
- ・もろくて、簡単に消えてしまうものでもある。

重みがあり、その一方で儚さも持ち合わせている命の多面性に触れた意見である。人間や動物以外の命についても意識していることがわかる。

⑤命…大切なものであるという意識のもの（男子3人、女子1人、合計4人）

- ・命は大切。
- ・命がなければ何もできないから大切。

命は大切であるという基本的な部分に触れている。このことを土台として様々な意見に触れる中で、価値を深められたらと考える。

命について様々な考えや捉え方をしていることがわかった。これは命がもつ多面性が関係しているものと思われる。「命」という一つのテーマがこれだけの価値を含んでいることは、授業を展開する上で指導者が意識していかなければならないと考える。

今回の事前アンケートでは、命から死を意識した生徒が多くいた。この意識は大切である。その一方で命は誕生という側面も持ち合わせている。今回の資料では命の誕生に重きを置いて展開していく。これまで意識した命の終わり始まりという両方の面を捉えることにより、生徒一人一人の命に対する価値観を深めていくことにつながっていくであろう。

(3) 資料について

今回の主となる資料はNHKスペシャル「あの日生まれた命」取材班・編「あの日生まれた命 48人の子どもたちと家族からの手紙」である。2011年3月11日に発生した東日本大震災。多くの尊い命が失われた日に、被災地で誕生していた命もあった。その命に対しての家族の思いが手紙として記されている。そこには「生まれてきてくれてありがとう」という思いと、「多くの人が悲しみに暮れている中で、我が子の誕生を祝っているのか」という思いの狭間で悩む家族の姿があった。本著の中の阿部洋司さんもそのような思いを抱き続ける父親の一人だ。震災の日に待望の長男、太洋くんが誕生した。愛おしさや喜びも束の間、その日の午後に震災に見舞われる。長男には何の罪もないのに心の底から誕生を祝ってあげることができない。そんな悔しさややるせなさを救ったのが「君の椅子プロジェクト」を中心となって展開している磯田憲一氏の提案であった。「君の椅子プロジェクト」とは、2006年から北海道の小さな町で始まった、生まれた子どもに手作りの椅子をプレゼントするという企画だ。地元の家具職人やデザイナーらが手がけ、子どもの名前と生年月日が刻まれた小さな椅子が贈られる。震災当日に東北で生まれた子どもたちにも同様に椅子を贈ろうという提案がされた。小さな椅子を手にした洋司さんは、「家族以外にも誕生を祝ってくれる人がいる」「祝ってもいいんだ」という思いでいっば

いになる。

この資料とともに、6年経った今、家族や椅子がどうなったのかということを読新聞記事を通して授業後に紹介する。命のつながりが現在も続いているという事実が今回の価値へと迫るものになるだろう。

【資料分析】

○主な場面	○主人公の心の動き・行動	○意図	○発問案
○待望の長男の誕生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幸せな気分に入れられていた。</li> <li>・愛おしさ。</li> <li>・10年ぶりに赤ちゃんをだっこした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命の誕生で人が幸せになっていくことに気づかせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長男が誕生した父親はどんな気持ちだったのだろう。</li> </ul>
○午後、震災に見舞われる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前とは一変した。</li> <li>・幸せを感じる余裕すら無くなった。</li> <li>・被災した方々に対する後ろめたさ。</li> <li>・何の罪もない長男に対して心の底からお祝いができない。</li> <li>・悔しさ。</li> <li>・悩み続けた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ喜びが表現できないのか考えさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どうして父親は喜べないのだろうか。</li> </ul>
○「君の椅子プロジェクト」の提案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もらえるんだったら…程度の気持ち。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まだ後ろめたさがあることを共有したい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提案を聞いて父親はどう感じたのだろう。</li> </ul>
○椅子を手渡された	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族以外の人でもお祝いしてくれるんだ。</li> <li>・お祝いしてもいいんだ。</li> <li>・涙がこみ上げてきた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで悩み続けてきたこと、思いについて考えたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・父親の涙にはどのような思いがあるのだろうか。</li> </ul>

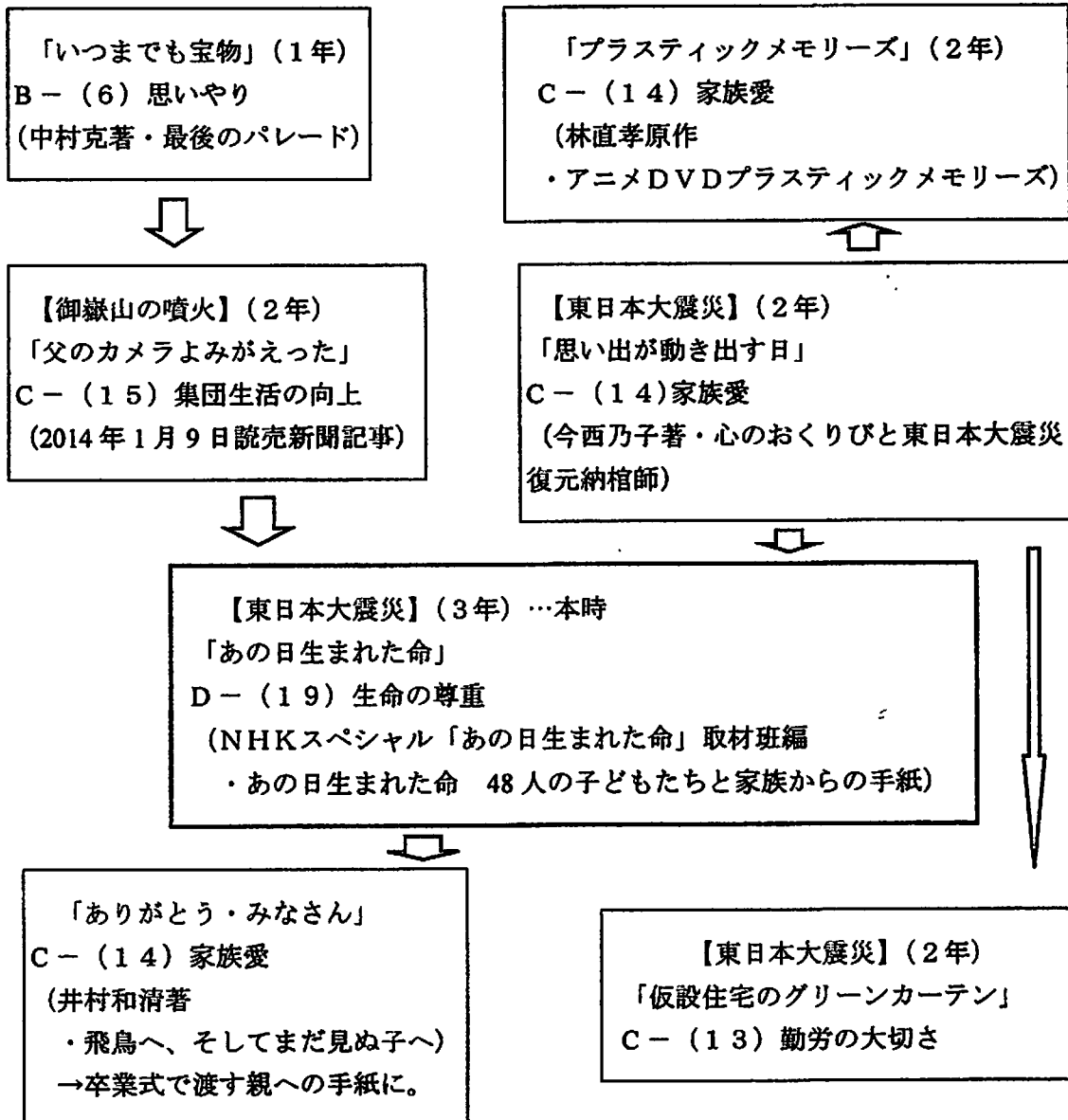
(4) 指導観

生徒がより価値に迫れる資料とは何であろうか。その一つにあるのが「生徒にとって身近な資料であるか」ということである。東日本大震災は生徒が小学生の時に体験し、現在も記憶に残っている。さらに熊本地震の報道もあり、震災について考える機会が多くあるように思える。また、「実際にあったできごと」は生徒の心に響く材料となる。本当にあったできごとということで、より真剣に考えるきっかけとなるからだ。「視覚に訴える資料の提示」も生徒の記憶をよみがえらせたり、イメージを膨らませるという点で効果的である。資料の世界にしっかりと引き込ませることによって、より考えを深めさせることが

できるのではないだろうか。本時では、視覚的資料として写真や手書きの手紙、実際に贈られた椅子を提示することにより価値に迫らせる手立ての一つとしていく。

これまで自然災害を通して様々な価値を共有してきた。二年時には、「御嶽山の噴火」による犠牲者と遺族へのある企業のはたらきかけを通して、自分が周囲の人へできることは何かということについて考えた。また、「東日本大震災」では遺族と納棺師の交流から家族の大切さについて、あるいはボランティアの意義について考えた。一朝一夕で道徳的価値観が培われるものではないことは言うまでもない。だからこそ、中学校三年間という長期的な視野で道徳を展開してきた。また、中学生という発達段階において自分と向き合い、相手の考えを知るきっかけとなる道徳を展開していくことは有効的であると考え。この先、生徒自身の考えが変化しようとも、中学生の時期の自分はそのように考えたな、学級では様々な意見が出ていたなと振り返ることができたのなら、それは生徒にとって糧となっていくのではないだろうか。これこそが道徳や教育が目指していくものと考え。

【資料の精選と積み重ね】





資料がもつ重要な役割もさることながら、生徒自身による言葉を引き出すことも大切である。「どんな意見でも認められる」という雰囲気づくりが必要不可欠である。その雰囲気が生徒達に安心感を抱かせ、自分自身と向き合う時間、そして他者と考えを共有していく時間へとつながっていく。その雰囲気づくりの手立てとして以下のことを考え実践している。

### ①道徳の時間での実践

- ・コの字形の隊形でお互いの表情が見えるようにしている。また、この隊形にすることで「今から道徳が始まる」という意識づけを教師も生徒もしている。
- ・机間指導の中で生徒の意見にアンダーラインを引いたり、声かけをすることで一人一人に自信と発表する際の安心感をもたせる。同時に意見を認めているという教師側の姿勢が伝わるようにしている。

### ②道徳の時間以外での実践

- ・PA（プロジェクト・アドベンチャー）による人間関係づくりでお互いのことを知る、失敗が許される、意見が認められる雰囲気を目指している。（例：自己紹介ジャンケン、新聞の文字から班員の名簿づくり、ブルーシート魂など）
- ・放課後ノートを活用して様々な価値観や役割を見出せるようにしている。そのためにノートの課題は様々なジャンルのものを用意している。幅広い分野での課題提供は、学級で活躍できる生徒の発見にもつながる。また、教え合いを認め生徒同士のコミュニケーションを図らせようとしている。  
例：答えが一つでない課題の提供。  
（千葉の地図を使ってご当地キャラづくり）  
例：自分自身と向き合う課題の提供。  
（少し未来の自分へのメッセージ）
- ・道徳の時間内では発表しきれなかった意見を学級通信で紹介している。家庭でも共有していくことにより価値が深まることもあるからだ。

## 3 本時の指導

### (1) ねらい

震災によって失われた命、生まれた命を通してかけがえのない命を尊重し、日々の生活を大切にしていく心を育てる。

### (2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・ 予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点	資料
導		1 名前の由来を聞いて、クラスの誰の名前か考える。	・意見を出しやすいように机をコの字形の隊形にする。 ・両親の願いについて触れていく。	短冊
		2 次の名前にはどんな意味が込められているのだろう。 結生…皆に結ばれて生まれてきた命	・赤ちゃん達が現在6歳であることを伝え、震災とつながるようにする。	写真 短冊

入	7	<p>を大事に生きていくように。 一花…歌にもあるように一つしかない特別な存在というオンリーワンの意味。大変な時だからこそ一つの希望の花になってほしい。</p> <p>太洋…真っ暗闇で不安に包まれていたあの日。生まれた我が子がみんなの希望の光になるように「太陽」にかけてつけた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・たくさんの命が失われた中で、生まれた命もあったということに気づかせたい。</li> <li>・生まれたことが何よりも嬉しかったことを添える。</li> </ul>	
展          開	3    3 3	<p>3 資料の範読を聞く。</p> <p>4 どうしてお父さんは太洋くんの誕生を喜ばなくなってしまったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・余裕がない毎日になってしまったから。</li> <li>・周りの人に申し訳ないから。</li> <li>・亡くなった人もいるから。</li> </ul> <p>5 椅子をもらえることを聞いたとき、お父さんは最初どんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何となくもらおう気持ち。</li> <li>・そんなに喜んでいない。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>6 椅子を手渡された時のお父さんの涙にはどのような思いがあったのだろう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たち以外にも喜んでくれる人がいた。</li> <li>・お祝いしてあげてもいいんだ。</li> </ul>	<p>・太洋くんの父親の手紙であることを伝え、資料の世界に入れるようにする。</p> <p>・内容を理解できるよう、ゆっくりとした範読を心がける。</p> <p>・プリントに記入させ、子どもの誕生すら喜ばない状況について捉えさせる。</p> <p>・まだ心のどこかに後ろめたさがあることに気づかせたい。</p> <p>・プリントには記入させず、その場で意見を聞き時間をかけないようにする。</p> <p>・提案者の磯田さんの考えにも触れていき、価値を深めたい。(この家族はずっと誕生日を祝えないのでは…)</p> <p>・プリントに考えを記入させじっくりと考えさせる。</p>	プリント

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・嬉しい。</li> <li>・今まで苦しかった。</li> <li>・生まれてきてくれて本当によかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・机間指導を行い、生徒が自信をもって発表できるようにする。</li> </ul>	
ま と め	10	<p>7 椅子に添えられた手紙を読み、今日の授業で感じたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれてきたことにはそれぞれ意味があることがわかった。</li> <li>・自分の命にも意味があると思う。</li> <li>・実際に椅子に触れてみたら、温かい気持ちになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料は範読だけにとどめ、生徒の胸に率直に響いたことを表現できるようにする。</li> <li>・実際に添えられた手紙を印刷し、温かみや臨場感が伝わるようにする。</li> <li>・実物の椅子を提示し、込められた思いを実感させたい。</li> <li>・時間があれば数名に発表させ、全体で共有していく。</li> <li>・学級通信などでも紹介する。</li> </ul>	手紙 椅子

### (3) 板書計画

椅子を手渡された時のお父さんの涙にはどのような思いがあったのだろう。

椅子をもらえることを聞いたとき、お父さんは最初どんな気持ちだったのだろう。

どうしてお父さんは太洋くんの誕生を喜ばなくなってしまったのだろう。

名前の由来

写真

あの日生まれた命

#### 4 他の教育活動との関連

生命の尊重を深い意味で理解することは、日々の生活を大切に過ごそうという意識につながっていくであろう。自分の生き方を振り返り、進路についても主体的に取り組む機会となると考える。

#### 《参考文献》

『「君の椅子」ものがたり』・「君の椅子」プロジェクト監修・文化出版局  
朝日新聞 2016年3月26日記事

もう早いものであの日かむ三年目を迎えようとしています。

あの日の朝、我が家では待望の長男が生まれ、幸せな気分に包まれていました。ほぼ十年ぶりに赤ちゃんを抱っこした私は、こんなに小さかったっけ？という驚きと、まさに目に入れても痛くないという言葉が、ピタリなぐらひの愛おしさを感じていました。

それがその日の午後には一変してしまいました。あの震災により、幸せを感じる余裕すら無くなってしまったのでした。

亡くなった方よりはマシ。それは当然です。常にそう自分に言い聞かせて毎日を送っていました。ただ、震災で亡くなった方や、被災した方々に対する後ろめたさから、何の罪もない長男に対して、心の底から祝ってあげられない事が悔しいというか、何とか……やるせない気持ちをごにもぶつけられず、妻共々悩み続けていました。

そんな気持ちのまま年末を迎えようとしていたある日、市役所から連絡がありました。北海道の小さな町で、毎年生まれた子供たちに「生まれかわってありがと」の思いを込めて、むくの木で作った椅子を贈っていて「君の椅子」プロジェクト、そのプロジェクト責任者の方の提案で、震災当日に東北で生まれた子供たちにも、同じように椅子を贈りたいという事でした。最初は、もらえるなら……ぐらひの軽い気持ちで返事をしてみました。

「びびりぐらひ、椅子を手渡したい」との連絡があり、プロジェクト責任者の磯田さんたちが、わざわざ北海道から我が家を訪ねてくださったのです。

色々とお話を聞いていくと、やはり震災の日に生まれた事で、心の底から祝福できない、という同じ悩みを抱えている家庭が多いという事、そしてその様な悩みを抱える家族を励ましたい、心の支えになれな、という思いでこの企画を提案されたとの事でした。帰りの際、磯田さんが長男に「生まれ来て来てくれたかけがえない命を大事にして、たくましく元気で育て下さい」と言われた時は、「あく家族以外でも、長男の誕生を祝ってくれる人があるんだ……。」と思っただたん、それまで我慢し続けて凍りついてしまった気持ちを溶かしていただいた感じがして、涙が込み上げてきて我慢するのに必死でした。

3月11日に生まれた君へ



世界にひとつだけの「希望の「君の椅子」」

3月11日。日本が息をのみ、言葉を失ったあの日。

母なる宇宙から君は生まれた。

未来への希望を携えて君は生まれてくれた。

新しい生を受けた君に、この椅子を贈ろう。

君の名前と「3月11日」が印された、君だけの椅子だま。

君がこの椅子に座るのは、ほんの数年かもしれない。

たくましく成長していくのだから……。

そして大きくなった君は、この椅子を忘れてしまうかもしれない。

でも、君との思い出を刻んだこの椅子は、

ずーっと側にいるからね。

君の居場所は、ここにあるからね。

いま、この地に生を受けた君に、この椅子を贈ろう。



生まれてくれて ありがとう。

「君の椅子」プロジェクト 一同

## 第2学年B組 道徳学習指導案

平成29年10月3日

展開場所 2年B組教室

指導者 駒居 拓磨

桑代 かほり

1 主題名 内容項目名 自主, 自律, 自由と責任 (内容項目番号 A- (1))

(資料名「やっとなかんだ職業」 自作資料)

2 主題設定の理由

(1) 価値について

学習指導要領 A- (1) は, 「自律の精神を重んじ, 自主的に考え, 判断し, 誠実に実行してその結果に責任を持つ」ために設定したものである。

「自律の精神を重んじ」とは, 他からの制御や命令を待つことなく, 自分の内に自ら規律を作り, それにしたがって行動しようとする気持ちを大切にすることである。「自主的に考え, 判断」とは, 他人の保護や干渉にとらわれずに, 善悪に関わる物事などについて幾つかの選択肢の中から自分で最終的に決めることである。「誠実」は, 自己を確立する上で中心となる価値である。そのため, A の視点の内容項目だけでなく, 他の視点の多くの内容項目にも関わる価値である。

自ら考え, 判断し, 実行し, 自己の行為の結果に責任をもつことが道徳の基本である。したがって, この価値項目は生徒一人ひとりが自らの責任によって生きる自信をもたせるために必要不可欠なものと考えられる。

また, 今回の学習指導要領に「判断し」という文言が加わっていることにも注目したい。これは, 道徳教育が生徒に「判断力」をつけさせることに重点を置いていることの表れであろう。特別の教科, 道徳では「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」を目標としている。生徒が道徳的価値を含む事象についての思考経験を経て, 自己の判断の基準となる道徳的価値を形成しつつ内面的資質を醸成させる機会としていく。この重要な価値を深めるために, 答えが一つでない道徳的な課題を生徒一人ひとりが自分自身の問題と捉えて向き合い, 「考える道徳」をめざしていく。

(2) 生徒の実態について (男子13名 女子19名 合計32名)

明るく活気のある学級である。道徳の授業では自分の意見を持ち真剣に考えることができる。また, 他の人の意見をしっかりと聞き, 反応したり頷く場面も多く見られる。自分の考えを持ち, 相手の意見を認めるといった姿勢は道徳の基本ともいえるだろう。しかし, 活気がある反面, 善悪を判断する前にその場の勢いだけで行動をしてしまう生徒もいる。そのような仲間が目の前にいると, 影響されやすい生徒や何もできずにいる生徒もいる。その結果, 小さなミスも小集団でごまかしたり, 人のせいにしてしまったりする傾向がある。このような実態から, 道徳的価値について考える姿勢はあるが, 実生活の中で実行し

ていく段階には達していないことがわかる。今回の価値に迫ることによって、自らの責任によって生きることについて考え、共有していく場としていきたい。より価値に迫るために、「私たちの道徳」を用いて自律について事前調査をおこなった。結果は以下の通りである。

・最近自分で考え判断したことにはどんなことがあるか、振り返ってみよう。（私たちの道徳 P.24）

主な回答

●=目の前の課題をその場で解決することを目的としたもの

☆=自分自身の目標を達成することを目的としたもの

○=全体（クラスや部活動）のためを目的としたもの

【男子】	【女子】
●トイレに行きたくなりトイレに行った	☆「生徒会」や「スピーチコンテスト」に出ようと思った
●体がにぶり散歩した	☆定期テストで10位までに入らなければ、決めた期間中は自分の好きな事をしないことを決めた
●起きられるかわからないから目覚ましをかけた	☆毎日必ず復習することを決めた
●荷物が増えそうなことを考えて少し大きなバッグに変えた	☆テスト勉強の計画を立てた
●家のシャッターを閉めた	☆やりたいことよりもやらなければいけない方を選び、実行した
●掃除をした	☆出かける計画を立てた
☆塾の空いている時間に自習をした	○趣味が同じ人の会を開こうと考え、実行した
☆わからなかった問題にわかるまで何度も取り組んだ	○部活で、後輩に注意した
○部員の足りないところを考え、練習内容を決めた	○部活で、使用できる場所を考えて、決めたことをみんなに伝えた。
	○部活で、タイマーの時間を進んで聞いたり、練習道具を準備したりした。
	○生徒会に立候補することを決めた
	○部活で、後輩に指示を出した

目の前の課題をその場で解決することを目的としたものは男子に多い。先のことに対して見通しをもって判断するという段階には至っていないことがわかる。しかし、まずは目の前のことに対して考えて行動する基本的な判断はある。女子は目標の達成に重きを置いたり、自分以外のための判断が多く見られた。これから生活する上で、自分の利益とは別に判断することを求められることもある。男女で価値について共有していくことにより、

少しずつ深めていけるよう導いていきたい。

・自律的に判断し誠実に実行するために、特に心掛けたいことを考えてみよう。友達と話し合ってみよう。(私たちの道徳 P.25)

多かった回答

【男子】	【女子】
・他人(周りの人)のために ・積極的に	・後先を大切に、責任がとれる範囲に ・自分だけでなく他人(周りの人)のために

自律的に判断し誠実に実行するためには他人(周りの人)ことを考えることが男女共通であつた。自律的に生きていくにあたり、判断する前に考える観点については高い位置にあるようだ。また、男子は積極的に行動する傾向が見られることに対し、女子は後先のことを考え慎重に行動する傾向が見られる。男子と女子で選択する判断の違いが見られることが予想される。相違性に気がつき認め合っていくことも、価値を深めていく手立ての一つと考える。

### (3) 資料について

今回の資料「やっとなつた職業」は実話によるものである。

資料のあらすじを紹介する。入社試験を80社以上受けてやっとなつた就職。家族みんなが喜んだ。勤務が期待していた方向に順調に進んでいたある日、本部から特別な販売仕事を任され大きく期待された。しかし、当日、販売機械の中に事前に消毒したハサミを落とすてしまう。誰も見ていない。販売のチャンスは今日しかなかつた。迷いと葛藤の中、正直に本当のことを言うか、言わないか。

実話には重みがあり、登場人物への自我関与を考える際に、臨場感をもって捉えることができるであろう。また、職場体験を控えた生徒にとって、社会に出て仕事をしていくことによる責任感を重く受け止めるきっかけにもしていきたい。自分が正しいと考える行動の結果に責任感をもって職場体験に生かすことができるだろう。自分のとつた行動には責任がともない、正しく判断していくことが不可欠であることを一人ひとりが深く考えた上で職場体験に臨ませることのできる資料となるであろう。

### 資料分析

〈主題名〉 自主、自律、自由と責任 (A- (1))

〈資料〉 「やっとなつた職業」

〈ねらい〉 主人公のとる行動を考えることにより、自分が正しいと判断する行動に責任をもち、社会のために貢献していく態度を育てる。



○主な場面	○主人公の心の動き, 行動	○意図	○発問案
○大手のコンビニエンスストアの本部に就職した。	○やっと決まった就職だった。	○入社試験を 80 社以上受け, 両親や家族が自分のことのように喜んでくれた就職であったことに気づかせたい。	○主人公にとっての就職はどのようなものだったのだろうか
○持っていた小さなハサミを, 原料を入れるタンクに落としてしまった。	○そっとハサミを取り出そうと考えた。	○どうすべきか迷っていることから行動の前に真剣に考えようとしていることに気づかせたい。	○主人公はどのような気持ちなのだろうか
○私はどうすべきか迷った。	○正直に言わないと大変なことになる。 ○みんなをがっかりさせたくない。 ○誰も見ていない	○正直に言うか, 言わないのか真剣に選択させたい。	○こんな時, 自分ならどう行動するだろうか。

#### (4) 指導観

指導要領や中教審の答申にも「道徳は, 学級担任が担当することが望ましい」とされている。道徳は担任がおこなうことが基本であるが, その表記は「望ましい」となっている。担任に限定するのではなく, 本時は副担任 2 人がおこなう。担任以外でも, 生徒の道徳的価値は育てられるのでないかと考える。生徒の成長や良い点を評価には盛り込んでいくとされている。生徒の変化を見つけていくのにも T2 は効果的である。道徳的な判断力, 心情, 実践意欲と態度を育むきっかけとして, 多くの大人が関わっていくことで生徒の新たな一面を引き出せるのではないだろうか。中学校は教科担任制でもあるので, 担任以外の教師が関わることに對して抵抗は少ないと思われる。また, 1 人で授業を展開するのではなく, T2 で授業をすることによって多面的に評価をすることができる。教科化に向けて評価をしていく上でより多くの目で見えていくことは生徒にとっても良いだろう。学校として, 教科化を見据えた取り組みである。

実話をもつ臨場感と将来の自分自身にも照らし合わせることによって行動と結果の責任

について真剣に考え、社会と向き合う機会としていきたい。また、自分の利益だけでなく社会のために貢献していこうとする価値も深めていきたい。学校生活の中で普段は何気なく行動していることも、社会に一步出れば自分の行動と結果にはより大きな責任感が必要になる。その土台づくりとして、判断力を伴った正しい行動をとることができる価値を深めていきたい。

生徒の実態より、自律的に判断し誠実に実行するためには自分以外の他者のことも考えることを心掛けたいという意見があった。また、積極性を心掛けたいという意見、できることだけを実行し責任がとれなくなるようなことはしないという生きるために必要な意見もあった。様々な意見を共有し、主体的に話し合い議論をしていくことによって、自らの責任をもって生きるために自信をもち、よりよく生きようとする心を育むことができる。資料の中の心情の葛藤から、正しい行動を選択するために考えた意見を共有し合うことで生徒の心の動きが期待されるであろう。意見を交わし合うことで、このような考えで行動すると、このような結果に責任を持たなければならないと多種多面で道徳的価値観を深めるきっかけともなり得るであろう。

また、意見を聞くときは、日常生活で判断の動機が低い位置にある男子から聞いていきたい。そして、男子に比べ高い位置にある女子に聞いていきたい。心情を刺激し合うことにより、話し合いの前後で男女ともに心のバロメーターが生活に必要な判断の位置まで高まることが期待されるだろう。

議論する上で、まず大切なのが自分自身の考えをもつことである。自分の考えがなければ議論する材料がないからだ。考えをもつ手立てとして教具を使用する。心の動きのバロメーターを表す教具（手のひらの大きさ、円形：赤(yes)・青(No)の割合を示すことができる）を生徒に一人一つ配布することで、心情が簡単に表現しやすくなると考える。図で表現することで他の人が見てすぐに表面上の気持ちがわかるものとなっている。視覚に訴えることで微妙な心情も表現できる。また、文字や言葉では考えを伝えにくい生徒もいる。そういった生徒もともに価値を共有していく場としていくためにこの手立てを考えた。また、図ではわからないその奥の自分の考えた根拠となる意見を言葉で表現させたい。その際、自分の気持ちを文字で表現できない生徒でも机間指導で考えを書くことができるようになり得るであろう。また、人の意見を聞いた後、心の動きに変化が見られた生徒の考えは大事にしていきたいので、一人ひとりの教具での表現をおさえておきたい。指導者が生徒の考えを把握する手立てともしていき、より価値が深まっていくように展開していきたい。

### 3 本時の指導

#### (1) ねらい

主人公のとする行動を考えることにより、自分が正しいと判断する行動に責任をもち、社会のために貢献していく態度を育てる。

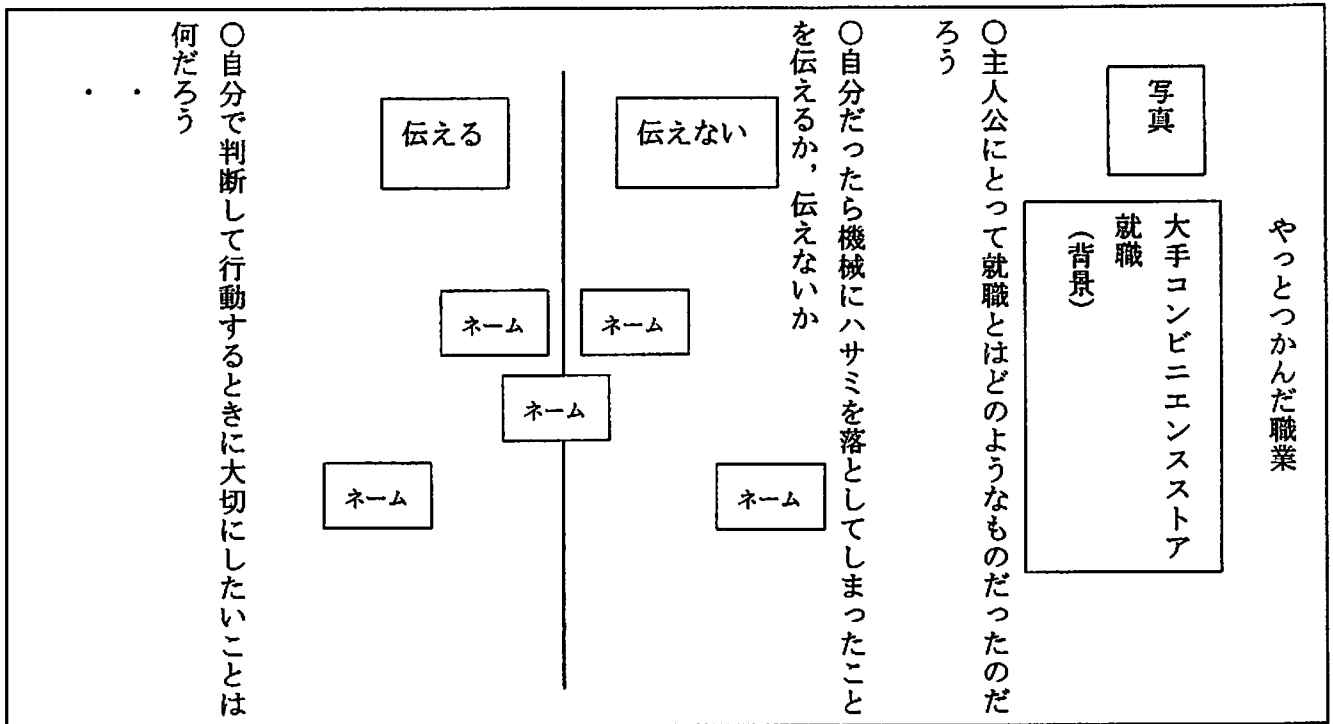
(2) 展開

過程	時配	学習活動と主たる発問・ 予想される生徒の反応	支援及び指導上の留意点	資料
導 入	5分	1. 福沢諭吉の教訓の□に入る 言葉を考える。 ・恋人 ・友達 ・パートナー ・仕事  世界で一番楽しく立派な事は、 一生涯を貫く□を持つとい う事です。	・コの字形の隊形にして、発 言しやすい雰囲気にする。 ・幅広い意見を認め、発言し やすい雰囲気作りを心がけ る。 ・『仕事』という言葉が入る ことを伝え、資料の世界に入 れるようにする。	コの字隊 形 短冊
展 開	35分	2. 資料の範読を聞く。  3. 発問①「主人公にとって就職 とはどのようなものだったのだろ う。」 ・80社も受けて苦労した。 ・やっと手に入れたもの。 ・家族も喜んでくれた。 ・たくさんの人の応援や支えがあ った。 ・すごく嬉しかった。	・ゆっくりとした範読を心が け、生徒が理解しやすいよう に配慮する。 ・登場人物について掲示物で まとめておく。 (就職する上で苦労したこ と、家族や会社の期待を背負 っていることを特に理解さ せる。)  ・プリントに記入させる。 ・机間指導を行い、書けない 生徒がいれば、主人公につい ての掲示物に注目させて考 えるように促す。	プリント 短冊  机間指導

	<p>4. 発問②「自分だったら機械にハサミを落としてしまったことを伝えるか、伝えないか。」</p> <p>A 伝える →会社やお客様に迷惑がかかるから。</p> <p>B 言いたくないが、伝える →わざとではないが自分のミスだから。</p> <p>C 言いたいけど、伝えない →せっかく頑張ってきたのに台無しになるから。</p> <p>D 伝えない →会社をクビになったら家族もがっかりするから。</p> <p>5. グループに分かれ、理由について話し合う。</p> <p>A・自分のミスだから。 ・ウソをつくともっと迷惑がかかるから。</p> <p>B・家族に申し訳ない気持ちはあるから。 ・言わないとずっと後悔するから。</p> <p>C・もう後には引けないから。 ・きれいなハサミだから。</p> <p>D・わざとではないから。 ・もう就職できないかもしれないから。</p> <p>6. 意見を発表する。</p>	<p>・ワークシートに理由を記入させる。</p> <p>・心の葛藤を大切に扱うために、ネームプレートで考えを示させる。</p> <p>・似たような意見でグループを作り指示する。</p> <p>・似たような判断であっても理由の違いに気づかせ、思考を深められるようにする。</p> <p>・小集団の中で共感させることによって、自分の意見に自信をもたせる。</p> <p>・心情スケールを用いて、文字での表現が苦手な生徒も参加できるように配慮する。</p> <p>・それぞれの考えを全体で共有させる。</p> <p>・理由の視点（自分に向けて、相手に向けて）がわかるような板書を心がけ、生徒の考</p>	<p>机間指導 ネームプレート</p> <p>プリント 心情スケール</p> <p>心情スケール</p>
--	--	--	--

		<p>7. 他の意見を聞いて、考えが変わったらネームプレートを移動させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ D→C →全て黙っているのは悪いような気がするから。</li> <li>・ B→A →ごまかしてしまう方が会社や家族に迷惑をかけるから。</li> </ul> <p>8. <u>発問③「自分で判断して行動するとき大切にしたいことは何だろう。」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 先のことをよく考える。</li> <li>・ 責任があることを理解する。</li> <li>・ 周りの人の気持ちを考える。</li> </ul>	<p>えを系統立てていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見を聞いて気持ちの変化があればスケールで表現させる。</li> <li>・ 変化した理由を数名に発表させる。</li> <li>・ 意見が変化しなかった生徒にも意見を聞く。</li> <li>・ 様々な考えがあることを認識させる。</li> <li>・ 最初の席に戻り、個でじっくり思考できるようにする。</li> <li>・ ワークシートに記入させる。</li> <li>・ 数名を指名して発表させる。</li> <li>・ 資料の中だけでなく、自分自身の生活としてのこととして考えさせ価値に迫りたい。</li> </ul>	ネームプレート
終末	10分	<p>9. 今日の授業で感じたことを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これから自分で判断するときは、先のことも考えて生活したい。</li> <li>・ 職場体験では責任ある行動をしたい。</li> <li>・ 一つの行動が様々なことに影響することがわかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時間があれば発表させ、全体で共有できるようにする。</li> <li>・ 学年通信や道德通信で紹介することにより、自己有用感の向上へつなげたい。</li> </ul>	

(3) 板書計画



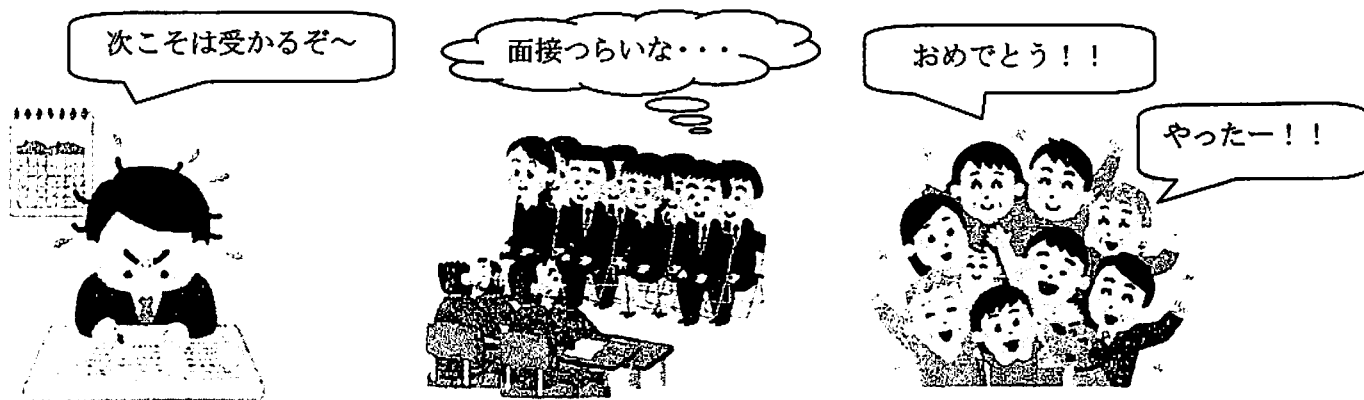
4 他の教育活動との関連

11月に控えている職場体験では、後先を考えずにその場の勢いで判断するのではなく、社会貢献のために責任ある行動をとることで充実する体験へとつなげたい。

後期より委員会・専門係会が自分たちの代になる。生徒会活動の中心となり、学級や学校のために考え、判断し、実行し、責任をもって、より良くしていこうとする意欲へつなげていきたい。

## やっとつかんだ職業

私は、大学卒業後、大手のコンビニエンスストアの本部に就職した。就職が決まるまで、入社試験を80社以上受けた。その度、履歴書を書いたり、何度も面接試験を受けたりした。不採用の通知が来る度、「自分はだめな人間」と言われているような気がして、くじけそうになった。そんな中、勉強が苦手で、あまり成績も良くない私が、持ち前の人当たりの良さと熱意を見せて、やっと決まった就職だった。両親、他の家族も自分のことのように喜んでくれた。いつも応援してくれたのは家族だった。



本部の社員といっても、初めは研修から始まる。身だしなみ、挨拶、姿勢、トイレ掃除、など社会人として基本的なことを厳しく何度も何度も指導された。就職活動と同じくらい苦しかったが、今後につながる指導を熱心にして下さった方々に感謝の思いを伝え、研修は終了した。そして、研修後、まず私が配置された所属場所となったのは、本部が直接運営している店だった。実際の仕事を体験したり、経営に関わったりすることで、優れた判断力を深めることが目標とされているのである。



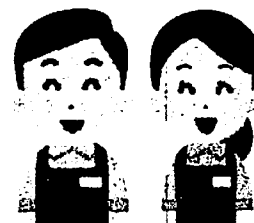
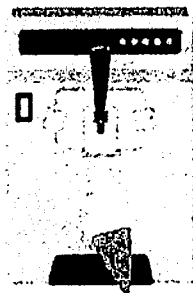
お店での勤務が期待していた方向に順調に進んでいたある日、私は本部の社員の先輩でもある店長から、ある指示を受けた。それは新しく導入されるソフトクリームの販売の機械の宣伝と実際のお客様の反応を調査するため、300食の試食を配るというものだった。通常はソフトクリームなどのアイスは他の業者から仕入れたものがケースに売られて販売されているが、今回の機械は新鮮な生乳などの材料を使い、お客様の目の前で作って販売するというものだった。今まで通常の仕事しか任されていなかった私にとって、今回の仕

事は特別なものであった。しかも、本部から結果を大きく期待されていると、先輩から言われた。

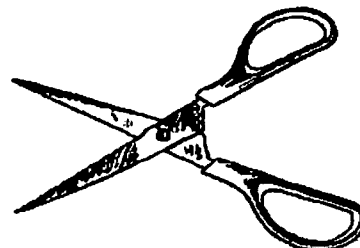


期待しているぞ!!

新しい機械が実際に店に運び込まれ、細かく丁寧に洗浄された。お客様の目の前で作るものなので衛生管理は徹底されていた。私は張り切り、販売開始前日の夜に何度も練習を重ねた。少しでも先輩や会社の期待にこたえたかったからだ。試食していただく量を調整したり、販売する際に、見た目がよくなる作り方を研究したりした。実際に新製品のソフトクリームは、味もよく、自信を持ってお客様におすすめできるものでもあった。私が必死に練習する姿を見て、働いている他の方も協力してくれた。そして、いざ、販売が始まった時も誰もが上手に作れるようにみんなで練習し、確認しあった。私のやる気はますます強くなった。



翌日、私は早速、試食の準備に取りかかった。販売のための原料は、昨日の夜の練習のせいでだいぶ減っていた。補充するために、原料の封を切ろうとしたその時だった。私は手を滑らせ、持っていた小さなハサミを、原料を入れるタンクに落としてしまったのだ。ハサミは事前に消毒してあったのだが…。私は周囲を見回した。幸いなことに、私の一連の動きを見ていた人は誰もいないようだった。私はそっとハサミを取り出そうと考えた。しかし、ハサミを取り出しても、機械の洗浄ができる業者の方は、すでに遠くにある別の店で作業を始めており、急いできたとしても夜になってしまうだろう。試食販売のチャンスは今日しかない。お客様はもう店にたくさん来ている。私はどうすべきか迷った。





# 道徳プリント

年 組 番 氏名

資料名 やっとなつた職業

☆主人公にとって就職とはどのようなものだったのだろう。

☆ 伝える . . . . . 伝えない

<p>《理由》</p> <hr/> <hr/> <hr/>
<p>友達の意見</p>

☆

<hr/> <hr/> <hr/>
-------------------

☆今日の授業で感じたことを書こう。

<hr/> <hr/> <hr/> <hr/>
-------------------------

## 子どもの変容と評価

1年生男子A

『赤ん坊の目』より(自主・自律・責任)

万引を悪いことだとわかっているのに、なぜ人間は  
悪いことをしてしまうのだろう。

『赤い信号』より(遵法の精神)

「早く走りたい」などの、そういう自分からな思  
いで信号無視はしてはいけないと思った。

『二通の手紙』より(遵法の精神)

かねてそうという気持ちだけできまりを守ら  
ないし、危険だったり、ときには命がかかって  
しまうので、守らなければいけない。

→最初は、資料の中の出来事だけに注目して考えをまとめていた。後半は価値について幅広く思いをめぐらすことができた。


### 【観察】

- ・発表を積極的に行った。
- ・他者の意見を聞いた上で、自分の考えを発表できるようになった。


きまりについて、その意義を深く考え発表していました。他の意見にも耳を傾け、きまりの大切さを改めて考えました。

1年生女子B

『シンプルイズビューティフル』より(望ましい生活習慣)

すっきりと整理すると、物が探しやすくなっていい  
所がたくさんあることが分かった 

『赤ん坊の目』より(自主・自律・責任)

もし友達が悪いことをしていたら、止めるのはず  
ごく良くて、友達を助けることにもなることに  
なるということが分かったから、自分も正しい行  
動を取りたいと思いました。 

『二通の手紙』より(遵法の精神)

やっぱり、きまりというのはみんなのためにあるもので  
とても大切だよね。思いやり的心も大切だということが  
分かりました。

→登場人物の行動を客観的に見た感想から、自分だったらどうするかという自我関与の姿勢  
が見られてきた。

自我関与によって生じた葛藤についても考えるようになっている。

【観察】

- ・大勢の前で発表することは少ないが、ペアなどの意見交換では自分の考えをしっかりと伝えていた。
- ・ワークシートにじっくりと記入している。

資料の登場人物と自分を重ねながら考えを伝えていました。また、ワークシートに授業  
を通して気づいた自分の課題をまとめていました。

1年生女子C

『赤ん坊の目』より(自主・自律・責任)

この話の主人公は、勇気があると思った。

もし自分が主人公と同じ立場に立ったら、同じ

ようなことを絶対できるとは言えないが、しっかり

考えて正しい行動をしたい。

『赤い信号』より(遵法の精神)

最初、迷うけど渡らないと思っていただけで、

最後は、渡らないと迷いがなくなった。ルールと

マナーを絶対に守らなければと思った。

『二通の手紙』より(遵法の精神)

この問題はすごく難しいと思った。ルールは

大切で、みんなのためにあるということを

再確認した。

→自分ができるとは何かという姿勢で授業に臨んでいる。

【観察】

- ・ネームプレートで自分の考えを表現していた。
- ・他者の意見も踏まえて、もう一度考える姿が見られた。

どの授業においても、自分自身と深く向き合っていて考えていました。きまりが全体のためにあるということを改めて感じていました。

# Burning!

～日々成長・日々感謝～



2018年 月 1日 26日  
印西市立印西中学校

3年B組学級通信  
No.45

## 道徳の時間：「あの日生まれた命 48人の子どもたちと家族からの手紙」

NHKスペシャル「あの日生まれた命」取材班・編「あの日生まれた命 48人の子どもたちと家族からの手紙」である。2011年3月11日に発生した東日本大震災。多くの尊い命が失われた日に、被災地で誕生していた命もあった。その命に対しての家族の想いが手紙として記されている。そこには、「生まれてきてくれてありがとう」という思いと、「多くの人が悲しみに暮れている中で、我が子の誕生を祝っていいのか」という思いの狭間で悩む家族の姿があった。震災の日に太洋くんが誕生した。父親は愛おしさや喜びを感じていたのも束の間、その日の午後に震災に見舞われる。長男には何の罪もないのに心の底から誕生を祝ってあげることができない。そんな悔しさややるせなさを救ったのが「君の椅子プロジェクト」である。椅子は地元の家具職人やデザイナーらが手がけ、子どもの名前と生年月日が刻まれた小さなものである。それを受け取った父親は、「家族以外にも誕生を祝ってくれる人がいる」「祝ってもいいんだ」という思いでいっぱいになる。

### ◎今日の授業を通して感じたこと◎

・3月11日は「東日本大震災」の日だけど、この日も、普通の日も誰かの誕生日なんだと気づいた。僕もこのような人達のために何かしてあげたいと思いました。

・震災という絶望の中、苦しんでいる人がいる時に生まれてきた子供の家族は、震災で苦しんでいる人と同じくらい辛かったのだと感じました。でも、何月何日に生まれようと、その子を応援してくれて、生まれてきてくれてありがとうと言ってくれる人もいて、命は大切だと確認できました。

・この長男が成長していくうちに自分の誕生日を喜んでいいのかな？と思う日が来るかもしれない。だけど、その時、父の心の支えになった椅子が長男の心の支えになるだろう。だからこの椅子のプロジェクトは、自分を大切にしようと思える良いプロジェクトだと思う。3月11日＝悲しい日にはいけないと思った。

・たとえ生まれた日が人類史に残る悪しき日だとしても、誕生を祝ってくれる人は少なからずいる。

・どんな日に生まれても生まれてきたことに変わりない。どんなに最悪な状況でも必ず祝ってくれる人はいる。

・自分の名前の由来を聞いてみようと思った。震災の日に生まれてきた人に元気に育ってほしいと思った。

・やはり子どもは親の宝物なんだと思った。

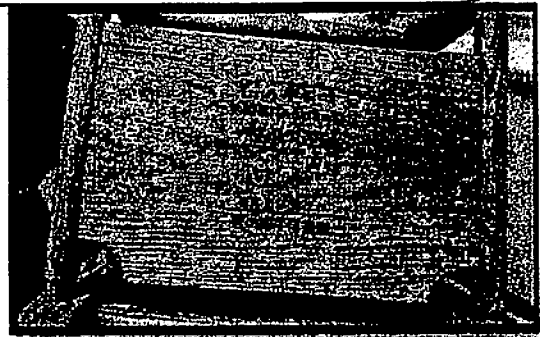
・その人に直接関係なくても誕生を祝ってくれるくらい、生まれてきたことは凄いいことなのだなと思った。

・どんな困難な状況でも強く生きている人がいるのが凄いいと思った。

・北海道の小さな町で毎年「君の椅子」プロジェクトが行われていることを初めて知った。

・どこにも「生まれてきちゃいけなかった」とか「祝福されない命」はないのだと感じた。震災の日に生まれたということは(本人にとって)申し訳ないことかもしれないけど、それと同時に“これからの希望が生まれた”という考え方がとても共感できた。

・どの日に生まれてきても命はかけがえのないものだから大切にしなければならない。3月11日に亡くなってしまった人も大勢いるけれど、それと同時に生まれてきた尊い命もある。

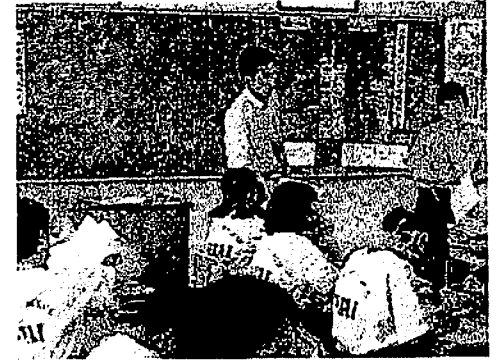
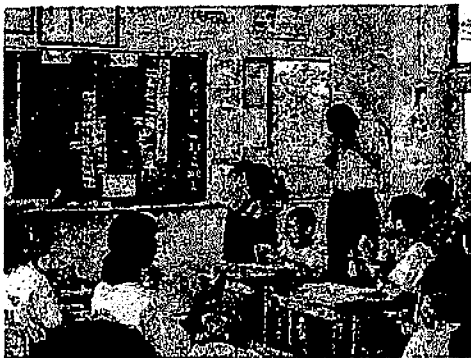


# わっしょい！

## 道徳研究授業

昨日は印西市と栄町の初任者の先生方を迎えて、道徳の研究授業が1年B組で行われました。たくさんの先生が参観する中、みんな一生懸命に考えて発表することができました。

今回の資料は『二通の手紙』です。主人公の元さんは市営動物園に長年勤めていました。勤勉さがかわれて定年後も働かないかという話が持ち上がっていました。元さんにとってこの仕事は生き甲斐です。そんなある日、二人の幼い姉弟が動物園に現れます。入園終了時間を過ぎている上に保護者の同伴もありません。規則では入園させることはできません。しかし姉は弟の誕生日にどうしても動物を見せてあげたいことを訴えます。元さんは迷った挙げ句、入園を許します。しかし、姉弟は行方不明になってしまい、職員総出で捜索をすることになりました。無事に発見されましたが元さんは自分の行動を改めて考えることとなります。そんな元さんのもとへ二通の手紙が届きます。一通は姉弟の母親からの感謝の手紙でした。もう一通は上司からの懲戒処分の通告でした。その後、元さんは自ら職を辞します。



### 【授業で思ったこと】

- ・きまりを守らなかつたら、みんながよい気持ちになれないということがわかった。
- ・校則や法律など様々なきまりがあるからちゃんと守っていきたくと思った。
- ・これからはきまりを自分のためだけでなく、相手のためにも守っていきたくと思う。
- ・きまりを守らないと誰かが嫌な思いをしてしまう。

☆みんなの真剣な姿に、先生方がとても感動していました！ありがとうございました。☆

### 《提出物の確認》

- 集金(まだの人)     学習のあゆみ(コメントと印鑑)     PTA下校指導参加調査票(13日まで)

# わっしょい！

## 全校一斉道徳 『静寂のマウンド』

印西中学校では学期に一度、全校一斉道徳を行っています。どの学年も学級も同じ資料で道徳を実施するものです。今回は『静寂のマウンド』という資料でした。現在もプロ野球選手として活躍する石井裕也選手の話です。石井選手は生まれつきの難聴というハンディをもっています。しかし、そのハンディを活かして無音の中で集中力を高めてピッチングに臨んでいます。プロになってからも二軍落ちなど壁に当たりました。しかし、努力を絶やすことなく一軍復帰を果たしました。そんな石井選手の映像を見ながら夢を実現させるために必要なことを全体で考えました。



### 【授業で思ったこと】

- ・自分も最近、部活動で思うようにならなくて少しネガティブになっていたけど、あきらめずに頑張って練習を積んで思うようなプレイができるようにしようと思った。
- ・失敗をしても努力をして、夢に向かって努力することが大切です。
- ・一回失敗してもまた頑張れば夢には必ずたどりつけると思った。
- ・挫折してもそこから立て直して努力したい。
- ・自分も将来、仕事に就くときはたくさん努力して頑張ってやっていきたいと思った。
- ・石井選手の苦しみや努力に比べたら、自分はずっともっと努力しなければいけないと考えた。

### <予定と持ち物>

		1	2	3	4	5	6	連絡・持ち物など
16日(月)	A							海の日
	B							
	C							
17日(火)	A	国語	理科	数学	社会	総合		職員会議 一斉下校15:10
	B	音楽	数学	社会	体育	総合		
	C	社会	英語	家庭	体育	総合		
18日(水)	A	社会	数学	家庭	体育	音楽	理科	大掃除 給食最終日 特別日課 第3回運動会実行委員会
	B	英語	家庭	数学	社会	理科	国語	
	C	数学	理科	音楽	国語	社会	英語	
19日(木)	A	数学	体育	国語	英語	社会	行事	大掃除 給食最終日 特別日課 第3回運動会実行委員会
	B	英語	数学	理科	国語	体育	行事	
	C	国語	理科	数学	社会	体育	行事	
20日(金)	A	国語	行事	学活				終業式 最終下校16:00
	B	社会	行事	学活				
	C	数学	行事	学活				

☆20日は部活動によってはお弁当が必要です。☆

### 《提出物の確認》

- 集金(1学期が終了してしまうので至急お願いします)       学習のあゆみ(コメントと印鑑)